

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンギフダイガク 国立大学法人岐阜大学								
フリガナ大学の名称	ギフダイガクダイガクイン 岐阜大学大学院（The Graduate school of Gifu University）								
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸1番1								
大学の目的	独創的かつ先進的研究の拠点として、知の創造と統合に努めるとともに、高度な教育を通してそれを継承発展させ、豊かな人間性と学識を養い、判断力と実行力及び構想力に富む人材の育成を行い、もって地域社会と人類の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	グローバルな視野をもちつつ、ローカルな視点から、医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導するため、多職種の人材と連携し、医療者教育を設計・実践・改善・発信できる能力のあるリーダーの育成								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	大学院設置基準第14条における特例を実施
	医学系研究科 （Graduate School of Medicine） 医療者教育学専攻 （Research Field of Health Professions Education） 計	年	人	年次人	人	修士（医療者教育学） （Master of Health Professions Education）	令和2年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部 特別支援学校教員養成課程（廃止）（△20） ※令和2年4月学生募集停止 医学部 看護学科（3年次編入学定員）（△10） ※令和2年4月学生募集停止 教育学部 学校教育教員養成課程（20）（令和2年4月） 医学部 医学科（△25）（令和2年4月） 								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医療者教育学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		5科目	13科目	0科目	18科目				

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	
新設分	医学系研究科 医療者教育学専攻(M)	6 (7)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	18 (19)	0 (0)	30 (30)
	計	6 (7)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	18 (19)	0 (0)	- (-)
	既	教育学研究科 教職実践開発専攻(P)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)
組	教育学研究科 心理発達支援専攻(M)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
	教育学研究科 総合教科教育専攻(M)	38 (38)	29 (29)	0 (0)	9 (9)	76 (76)	0 (0)	76 (76)
織	地域科学研究科 地域政策専攻(M)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	19 (19)
	地域科学研究科 地域文化専攻(M)	14 (14)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	21 (21)	0 (0)	21 (21)
設	医学系研究科 医科学専攻(D)	37 (38)	29 (29)	3 (3)	36 (36)	105 (106)	0 (0)	124 (124)
	医学系研究科 看護学専攻(M)	10 (10)	12 (12)	0 (0)	15 (15)	37 (37)	0 (0)	15 (15)
の	工学研究科 工学専攻(D)	67 (67)	54 (54)	0 (0)	0 (0)	121 (121)	0 (0)	0 (0)
	工学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻(D)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
概	工学研究科 岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻(D)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
	自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻(M)	28 (28)	17 (17)	0 (0)	15 (15)	60 (60)	0 (0)	64 (64)
要	自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻(M)	22 (22)	24 (24)	0 (0)	9 (9)	55 (55)	0 (0)	60 (60)
	自然科学技術研究科 環境社会基盤工学専攻(M)	15 (15)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	26 (26)	0 (0)	30 (30)
分	自然科学技術研究科 物質・ものづくり工学専攻(M)	19 (19)	12 (12)	0 (0)	10 (10)	41 (41)	0 (0)	45 (45)
	自然科学技術研究科 知能理工学専攻(M)	21 (21)	24 (24)	0 (0)	12 (12)	57 (57)	0 (0)	61 (61)
計	自然科学技術研究科 エネルギー工学専攻(M)	20 (20)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	40 (40)	0 (0)	44 (44)
	自然科学技術研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(M)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
計	共同獣医学研究科 共同獣医学専攻(D)	13 (13)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
	連合農学研究科 生物生産科学専攻(D)	15 (15)	18 (18)	0 (0)	3 (3)	36 (36)	0 (0)	15 (15)
計	連合農学研究科 生物環境科学専攻(D)	14 (14)	20 (20)	0 (0)	6 (6)	40 (40)	0 (0)	15 (15)
	連合農学研究科 生物資源科学専攻(D)	29 (29)	23 (23)	0 (0)	10 (10)	62 (62)	0 (0)	15 (15)
計	連合農学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻(D)	16 (16)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	4 (4)
	連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻(D)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	19 (19)
計	連合創薬医療情報研究科 医療情報学専攻(D)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	19 (19)
	計	272 (273)	207 (207)	4 (4)	125 (125)	608 (609)	0 (0)	- (-)
合計	計	273 (274)	207 (207)	4 (4)	126 (126)	610 (611)	0 (0)	- (-)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		329人 (329)	11人 (11)	340人 (340)						
	技 術 職 員		871 (871)	224 (224)	1,095 (1,095)						
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)	0 (0)	7 (7)						
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)						
	計		1,208 (1,208)	235 (235)	1,443 (1,443)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	192,757㎡	0㎡	0㎡	192,757㎡						
	運 動 場 用 地	90,589㎡	0㎡	0㎡	90,589㎡						
	小 計	283,346㎡	0㎡	0㎡	283,346㎡						
	そ の 他	6,045,665㎡	9,051㎡	0㎡	6,054,716㎡	その他の内、附属病院 62,890㎡					
	合 計	6,329,011㎡	9,051㎡	0㎡	6,338,062㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		195,928㎡ (195,928㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	195,928㎡ (195,928㎡)	別途附属病院 70,002㎡					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	86室	67室	575室	8室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)	大学全体					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		医学系研究科医療者教育学専攻(M)		13 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	医学系研究科医療者 教育学専攻(M)	905,757 [303,075] (905,757 [303,075])	24,032 [11,722] (24,032 [11,722])	7,268 [6,048] (7,268 [6,048])	4,331 (4,331)	6,487 (6,487)	2,238 (2,238)	専攻単位では特定 不能なため、申請 大学全体の数			
	計	905,757 [303,075] (905,757 [303,075])	24,032 [11,722] (24,032 [11,722])	7,268 [6,048] (7,268 [6,048])	4,331 (4,331)	6,487 (6,487)	2,238 (2,238)				
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数						
		9,951㎡		712	959,578		大学全体				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要							
		4,616㎡		弓道場、プール、陸上競技場、野球場、ラグビー場、 サッカーコート、バスケットボールコート(3面)、ハンド ボールコート(2面)、バレーボールコート(4面)、テニス コート(13面)				大学全体			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	—	国費による
		共 同 研 究 費 等		—	—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	—		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		該当なし									

大 学 の 名 称	岐阜大学								定員超過率については、平成30年度の 数値を記入。
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	
	年	人	年次 人	人		倍			
教育学部									岐阜県岐阜市柳戸1番1
学校教育教員養成課程	4	230	-	920	学士(教育学)	1.02	平成10年度		
特別支援学校教員養成課程	4	20	-	80	学士(教育学)	1.01	平成19年度		
地域科学部									岐阜県岐阜市柳戸1番1
			3年次						
地域政策学科	4	50	5	210	学士(地域科学)	1.08	平成18年度		
地域文化学科	4	50	5	210	学士(地域科学)	1.08	平成18年度		
医学部									岐阜県岐阜市柳戸1番1
			3年次						
医学科	6	110	-	657	学士(医学)	1.00	昭和39年度		平成27年度入学定員増(3人)
看護学科	4	80	10	340	学士(看護学)	1.00	平成12年度		
工学部									岐阜県岐阜市柳戸1番1
社会基盤工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.02	平成14年度		
機械工学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.04	平成25年度		
化学・生命工学科	4	150	-	600	学士(工学)	1.05	平成25年度		
電気電子・情報工学科	4	170	-	680	学士(工学)	1.03	平成25年度		
機械システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成14年度		平成25年度より 学生募集停止
応用化学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成14年度		平成25年度より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成14年度		平成25年度より 学生募集停止
人間情報システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成14年度		平成25年度より 学生募集停止
			3年次						
(各学科共通)	-	-	30	60	学士(工学)	-			
応用生物科学部									岐阜県岐阜市柳戸1番1
			3年次						
応用生命科学課程	4	80	5	330	学士(応用生物科学)	1.07	平成23年度		
生産環境科学課程	4	80	5	330	学士(応用生物科学)	1.04	平成16年度		
共同獣医学科	6	30	-	180	学士(獣医学)	1.05	平成25年度		
獣医学課程	6	-	-	-	学士(獣医学)	-	平成16年度		平成25年度より 学生募集停止
教育学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1
教職実践開発専攻(P)	2	25	-	50	教職修士(専門職)	1.02	平成20年度		
心理発達支援専攻(M)	2	10	-	20	修士(教育学)	0.55	平成20年度		
総合教科教育専攻(M)	2	34	-	68	修士(教育学)	1.00	平成25年度		
地域科学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1
地域政策専攻(M)	2	12	-	24	修士(地域科学)	0.29	平成13年度		
地域文化専攻(M)	2	8	-	16	修士(地域科学)	2.00	平成13年度		

既設

大学等の状況	医学系研究科								岐阜県岐阜市柳戸1番1		
	医科学専攻(D)	4	47	-	188	博士(医学)	0.73	平成14年度			
	再生医科学専攻(D)	3	-	-	-	博士(再生医科学)	-	平成14年度		平成31年度より学生募集停止	
	看護学専攻(M)	2	8	-	16	修士(看護学)	0.68	平成17年度			
	工学研究科								岐阜県岐阜市柳戸1番1		
	社会基盤工学専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度		平成29年度より学生募集停止	
	応用情報学専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度		平成29年度より学生募集停止	
	数理デザイン工学専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度		平成29年度より学生募集停止	
	環境エネルギーシステム専攻(M)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18年度		平成29年度より学生募集停止	
	生産開発システム工学専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度		平成31年度より学生募集停止	
	物質工学専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度		平成31年度より学生募集停止	
	電子情報システム工学専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年度		平成31年度より学生募集停止	
	環境エネルギーシステム専攻(D)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成11年度		平成31年度より学生募集停止	
	工学専攻(D)	3	23	-	23	博士(工学)	-	平成31年度			
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携統合機械工学専攻(D)	3	2	-	2	博士(学術)	-	平成31年度			
	岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻(D)	3	2	-	2	博士(学術)	-	平成31年度			
	応用生物科学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1	
	応用生命科学専攻(M)	2	-	-	-	修士(応用生物科学)	-	平成25年度			平成29年度より学生募集停止
	自然科学技術研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1	
	生命科学・化学専攻(M)	2	74	-	156	修士(工学または応用生物科学)	1.22	平成29年度			
	生物生産環境科学専攻(M)	2	42	-	86	修士(応用生物科学)	1.14	平成29年度			
	環境社会基盤工学専攻(M)	2	29	-	58	修士(工学)	1.25	平成29年度			
	物質・ものづくり工学専攻(M)	2	67	-	134	修士(工学)	1.35	平成29年度			
	知能理工学専攻(M)	2	81	-	162	修士(工学)	1.22	平成29年度			
	エネルギー工学専攻(M)	2	72	-	144	修士(工学)	1.28	平成29年度			
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻(M)	2	10	-	10	修士(食品科学技術)	-	平成31年度			
	共同獣医学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1	
	共同獣医学専攻(D)	4	6	-	6	博士(獣医学)	-	平成31年度			
	連合農学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1	
	生物生産科学専攻(D)	3	7	-	21	博士(農学)	0.90	平成3年度			
	生物環境科学専攻(D)	3	5	-	15	博士(農学)	1.53	平成3年度			
	生物資源科学専攻(D)	3	6	-	22	博士(農学)	1.83	平成3年度			
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻(D)	3	2	-	2	博士(学術)	-	平成31年度			
連合獣医学研究科									岐阜県岐阜市柳戸1番1		
獣医学専攻(D)	4	-	-	-	博士(獣医学)	-	平成2年度			平成31年度より学生募集停止	

<p>連合創薬医療情報研究科</p> <p>創薬科学専攻(D)</p> <p>医療情報学専攻(D)</p>	<p>3</p> <p>3</p>	<p>3</p> <p>3</p>	<p>-</p> <p>-</p>	<p>9</p> <p>9</p>	<p>博士(工学または薬科学)</p> <p>博士(医科学または薬科学)</p>	<p>1.22</p> <p>0.77</p>	<p>平成19年度</p> <p>平成19年度</p>	<p>岐阜県岐阜市柳戸1番1</p>
<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：教育学部附属小・中学校 目的：小学校教育、中学校教育、研究及び教員養成 所在地：岐阜県岐阜市加納大手町74番地 設置年月：附属小学校 昭和27年4月 附属中学校 昭和26年4月 規模等(延面積)：13,531㎡</p> <p>名称：医学部附属病院 目的：診療、医学の教育及び研究 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：昭和42年6月 規模等(延面積)：72,552㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 美濃加茂農場 目的：農学、獣医学の教育及び研究 所在地：岐阜県美濃加茂市牧野1918-1 設置年月：平成16年4月 規模等(延面積)：建物 1,590㎡ 土地 95,832㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 位山演習林 目的：農学の教育及び研究 所在地：岐阜県下呂市萩原町山之口 設置年月：平成16年4月 規模等(延面積)：建物 1,103㎡ 土地 5,539,302㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属動物病院 目的：診療、獣医学の教育及び研究 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成16年4月 規模等(延面積)：3,297㎡</p> <p>名称：教育推進・学生支援機構 目的：教育推進、学生支援 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成25年12月 規模等(延面積)：7,003㎡</p> <p>名称：研究推進・社会連携機構 目的：研究推進、教育研究活動支援、産学連携・地域連携推進 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成24年8月 規模等(延面積)：3,906㎡</p> <p>名称：流域圏科学研究センター 目的：流域圏科学分野の研究 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 (高山試験地 岐阜県高山市岩井町919の47) 設置年月：平成14年4月 規模等(延面積)：1,890㎡</p>							

<p>名 称 : 保健管理センター 目的 : 学生及び教職員の健康管理 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 : 昭和49年4月 規模等 (延面積) : 525㎡</p> <p>名 称 : 医学教育開発研究センター 目的 : 医学教育に関する研修、調査分析等 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 : 平成13年4月 規模等 (延面積) : 422㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人岐阜大学 設置申請に関わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岐阜大学				岐阜大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	230	—	920	学校教育教員養成課程	<u>250</u>	—	<u>1,000</u>	定員変更(20)
特別支援学校教員養成課程	20	—	80		<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科(6年制)	110	—	657	医学科(6年制)	<u>85</u>	—	<u>635</u>	臨時定員増終了による定員変更(Δ25)
看護学科	80	10	340	看護学科	80	<u>0</u>	<u>320</u>	平成32年4月3年次編入学学生募集停止
工学部		3年次		工学部		3年次		
社会基盤工学科	60			社会基盤工学科	60			
機械工学科	130	30	2,100	機械工学科	130	30	2,100	
化学・生命工学科	150	(各学科 共通)		化学・生命工学科	150	(各学科 共通)		
電気電子・情報工学科	170			電気電子・情報工学科	170			
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命科学課程	80	5	330	応用生命科学課程	80	5	330	
生産環境科学課程	80	5	330	生産環境科学課程	80	5	330	
共同獣医学科(6年制)	30	—	180	共同獣医学科(6年制)	30	—	180	
計	1,240	60	5,357	計	<u>1,215</u>	<u>50</u>	<u>5,315</u>	
岐阜大学大学院				岐阜大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	25	—	50	教職実践開発専攻(P)	25	—	50	
心理発達支援専攻(M)	10	—	20	心理発達支援専攻(M)	10	—	20	
総合教科教育専攻(M)	34	—	68	総合教科教育専攻(M)	34	—	68	
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻(M)	12	—	24	地域政策専攻(M)	12	—	24	
地域文化専攻(M)	8	—	16	地域文化専攻(M)	8	—	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(4年制D)	47	—	188	医科学専攻(4年制D)	47	—	188	
看護学専攻(M)	8	—	16	医療者教育学専攻(M)	<u>6</u>	—	<u>12</u>	研究科の専攻の設置(意見伺い)
				看護学専攻(M)	8	—	16	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻(D)	23	—	69	工学専攻(D)	23	—	69	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	
岐阜大学・マレーシア国民大学				岐阜大学・マレーシア国民大学				
国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	
生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	
環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	
物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	
知能理工学専攻(M)	81	—	162	知能理工学専攻(M)	81	—	162	
エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	7	—	21	生物生産科学専攻(D)	7	—	21	
生物環境科学専攻(D)	5	—	15	生物環境科学専攻(D)	5	—	15	
生物資源科学専攻(D)	6	—	18	生物資源科学専攻(D)	6	—	18	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻(D)	3	—	9	創薬科学専攻(D)	3	—	9	
医療情報学専攻(D)	3	—	9	医療情報学専攻(D)	3	—	9	
計	578	—	1,315	計	<u>584</u>	—	<u>1,327</u>	

教育課程等の概要																
(医学系研究科医療者教育学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学際科目	医療における多職種協働と地域連携	1前	2			○			2	1		2		兼3	オムニバス・メディア（一部） ※演習、実習	
	医療者教育の社会的意義	1前	2				○		2	2				兼1	オムニバス・メディア（一部） ※講義	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	—	3	2	0	2	0	兼4	—	
専門科目	必修科目	教育理論と効果的な教育方法	1前	2			○		1	1		3		兼2	オムニバス・メディア（一部） ※演習、実習	
		学習者評価の原理と評価方法	1前	2				○			2		2		兼3	オムニバス・メディア（一部） ※講義
		カリキュラムの開発と評価	1前	2			○		2	1		1		兼1	オムニバス・メディア（一部） ※演習、実習	
		医療者教育におけるグローバル化と日本での展開	1後	2				○		1	1		1		兼5	オムニバス・メディア（一部） ※講義
	医療系教育者の教育能力開発	1後	2			○		1	1		2		兼2	オムニバス・メディア（一部） ※演習、実習		
	医療者教育の改革におけるリーダーシップとマネジメント	1後	2				○		1	1				兼2	オムニバス・メディア（一部） ※講義	
	教育実践報告と改善のための批判的吟味	1後	2				○		4	1		8		兼10	オムニバス・メディア（一部） ※講義	
	小計（7科目）	—	14	0	0	—	—	—	5	2	0	9	0	兼21	—	
選択必修科目	臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル	2前		1		○				1		1			オムニバス・メディア ※演習	
	e-learning における学習支援	2前		1			○			1		3			オムニバス・メディア ※講義、実習	
	医療者教育研究のプロトコル立案	2前		2			○		1	1		1		兼2	オムニバス・メディア（一部） ※講義	
	e-learning・シミュレーション教育の開発	2前		2			○		1	0				兼2	オムニバス・メディア ※講義	
	教育実践の視察と外部評価	2前		1			○		1	1					オムニバス・メディア ※実習	
	北米における医療者教育	2前		2			○			1		1		兼4	オムニバス・メディア ※講義	
	欧州における医療者教育	2前		2			○			1		1		兼2	オムニバス・メディア ※講義	
小計（7科目）	—	0	11	0	—	—	—	3	1	0	3	0	兼10	—		

特別 研究 科目	医療者教育研究技法の基本	1後	2			○		3	2		3		兼1	オムニバス・ メディア（一 部） ※講義
	医療者教育実践の調査と研究	2後	6			○		6	3		8		兼10	メディア（一 部） ※講義
	小計（2科目）	—	8	0	0	—		6	3	0	8	0	兼11	—
合計（18科目）		—	26	11	0	—		7	3	0	9	0	兼30	—
学位又は称号	修士（医療者教育学）	学位又は学科の分野				医学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件は、必要な単位（学際科目4単位、専門科目（必修科目）14単位、専門科目（選択必修科目）の中から4単位以上、特別研究科目8単位の計30単位以上）を修得した上で修士論文の審査及び最終試験に合格すること。（履修科目の登録の上限：20単位（年間））						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科医療者教育学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 際 科 目	医療における多職種協働と地域連携	<p>概要： 現代の医療教育機関に相応しい、医療者教育学の関係者に求められる能力や知識を、総論として俯瞰的に学ぶ。現代の医療現場に欠かせない視点である地域連携・多職種連携の事例を題材に、地域での医療者教育や多職種連携に必要な理論やモデルを学ぶ。そして様々な保健関連職業の医療者や学生が共同的に学ぶことで、協動的コミュニケーション・互恵的態度・連携能力・チームワーク構築ができるようになるような、医療者教育の在り方を学ぶ。</p> <p>目標： 1) 地域における多職種連携の事例を俯瞰し、多様な職種とその行動を観察し、多職種連携の意義を論じられる。 2) 必要な教育理論を理解し、多職種連携の事例を分析できる。 3) フィールドワークやインタビューを通じて現状を把握し、改善すべき課題を同定・分析し改善案を提示できる。 4) 地域医療教育の事例検討を通じて、地域基盤型教育の展開に必要なエッセンスを論じることができる。 5) 社会的構成主義・学習者中心性・自己調整型学習や協働学習等、教育の基本的パラダイムを説明できる。</p> <p>授業の内容・講師：（オムニバス方式／講義、演習、実習で全21コマ （講義10回・演習9回・実習2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（調書番号④ 氏名 村上啓雄 / 1回 [e-learning講義 x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：地域における連携の実際 学生は、地域における医療・介護・福祉の連携や新しい考えた方スキルの伝達・共有・改善に関する事例を理解する。そしてその連携の具体的な取り組みの中に、どのような困難がありいかなる工夫や方略でそれを克服していったのかを読み取る。そして多職種連携・地域連携に必要な連携のエッセンスを議論する。 ・（調書番号② 氏名 鈴木康之 / 1回 [e-learning講義 x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：成人学習理論 アンドラゴジーという概念を、マルコム・ノールズがさらに発展・提唱した成人学習理論は、あらゆる教育場面の根底に常に存在する考え方である。地域で連携するすべての医療者が他者と学んだり仕事をしたりする営みを教育的に効果的なものにするために、欠かせない5つの大原則を学習する。 ・（調書番号⑧ 氏名 西城卓也 / 3回 [キャンパス講義x1、キャンパス演習x2]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：これまでの教育者としての自己概念【導入授業】 ・e演習名：職種間の相互理解（演習x2相当） この講義と演習では、学生はまず、教育者の振り返りや改善をするにあたって欠かせない自己概念の定義、意義、事例を講義で学ぶ。そして学生各自の自己概念が、職種間や地域における他施設の人との連携にどのような影響を与えているのかを共有するワークを行う。 ・（調書番号⑩ 氏名 今福輪太郎 / 2回 [e-learning講義x2]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：多職種連携者としてのプロフェッショナル・アイデンティティ ・e講義名：多職種連携教育のアプローチ この二つの講義では、医療の専門職や医療専門職の教育の専門職としての成長を考え、その誇り・使命感・倫理観を形成するプロセスの支えとなるプロフェッショナル・アイデンティティを学習する。そしてどのような業務や経験を経て、各自のアイデンティティをカスタマイゼーションし、熟成させてゆくのかを学ぶ。また多職種連携においても、連携者としてのアイデンティティを形成することは、良き連携者への成長に欠かせないことであり、その事例をもとに理解を深める。 ・（調書番号⑫ 氏名 川上ちひろ / 6回 [キャンパス演習x1、e-learning演習x5]） <ul style="list-style-type: none"> ・e演習名：ケーススタディ：地域における多職種連携と教育 ・e演習名：ケーススタディ：課題同定 ・e演習名：ケーススタディ：マクロレベルでの理論的分析 ・e演習名：ケーススタディ：ミクロレベルでの理論的分析 ・e演習名：ケーススタディ：改善策提示 ・e演習名：ケーススタディ：改善策への意見交換 この演習においては、地域における多職種連携とその教育実践に関するシナリオをもとに、ケーススタディを行う。ケースの中に含まれる問題・課題を同定し、互いのアイデアや視点を共有する。さらにはそれをどのように分析するのかを、この科目で学習する様々な理論をステップバイステップで応用しながら理論的な分析を試みる。そして最終的にはどのような改善策が考えられるのか、改善計画を立案する。それらの課題は学生相互に提示しあい、意見とフィードバックを交換しあい、そして課題の最終レポートを提出し評価を受ける。 ・（調書番号⑮ 氏名 春田淳二 / 4回 [キャンパス講義x3、キャンパス演習x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：多職種連携に必要な理論1：社会的アイデンティティ理論 ・e講義名：多職種連携に必要な理論2：活動理論 ・e講義名：多職種連携に必要な理論3：接触仮説・タックマンモデル ・e演習名：連携の実践を理論的に分析する 多職種連携は、扱われる内容・業務、現場の文脈、その連携に関わる人材により営まれるものであるが、根底にはそれぞれの局面において、そのメカニズムや効果的アプローチを示してくれる理論がある。自分がどのような社会集団に属しているのかを考えるフレームになる社会的アイデンティティ理論、さらに偏見を軽減するための条件を示した接触仮説、チームプロセスの営みをタックマンモデルで学習する。またチームで学習すること・協働することをチーム学習・協働論で示し、チームが道具を使って、分業・協業しながら対象を拡大していく状況を活動理論で、学習する。 ・（調書番号⑰ 氏名 山田隆司 / 1回 [e-learning講義 x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名：地域医療教育の現状と展望 あらゆる医療職は人材難に悩まされており、地域においては限られた物的・人的資源の中で、やりくりをして教育を実践している現状である。そのような状況を、学生は大局的に理解し、今後の医療者教育の方向性を占めるに必要な地域医療・教育の現状と展望を学習する。 ・（調書番号⑱ 氏名 市橋亮一 / 3回 [キャンパス講義 x1、キャンパス臨地実習x2]） <ul style="list-style-type: none"> ・e臨地実習名：在宅医療における多職種連携 ・e臨地実習名：新しい健康の概念と多職種の役割 ・e講義名：地域におけるネットワークの創造 超高齢化社会において、医療の在り方や仕組みが、患者の支援の方法が変容し続ける時代において、在宅医療は、多職種連携・地域連携を考えるうえで絶好の事例の一つである。学生は先駆的取り組みをしている事例を、実際の診療・ケアの場面に参与観察し、振り返りを行う。そしてその観察記録と議論を参考にしつつ、患者・家族・医療者関係や、地域における連携のネットワークの形成の在り方を学ぶ。 <p>キーワード： 活動理論、専門職アイデンティティ形成、Mezirowの変容学習、オルポートの接触仮説、教育の原則、現代教育のパラダイム、行動主義と構成主義、ウィゴツキー理論、経験学習理論</p>	オムニバス方式 講義20H 演習18H 実習 4H

	<p>医療者教育の社会的意義</p> <p>概要： 社会と国民のための医療と、それを担う医療者育成を大局的に捉えるため、医療および各専門職の歴史的背景や社会的意義や役割を俯瞰し、医療者教育に携わる人材に求められる役割・能力・意義を議論する。</p> <p>目標： 1) 医療・福祉・介護に貢献できる優れた人材を育成するため、どのような医療者教育が求められるか説明できる。 2) 社会における医療者教育の意義を学びつつ、医療者教育者の能力と役割を俯瞰的に理解する。 3) 医療者教育学における、教育実践と教育研究の狭間の学術的活動の在り方を説明できる。</p> <p>授業の内容・講師：(オムニバス方式/講義と演習で全20コマ(講義10回・演習10回))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号①) 氏名 藤崎和彦 /4回 [キャンパス講義x1、e-learning講義x3] ・e講義名： 社会と医療者教育1: Social Accountability 【導入授業】 ・e講義名： 社会と医療者教育2: 健康の社会的決定要因と教育 ・e講義名： 社会と医療者教育3: 日本の保健医療と医療者教育 ・e講義名： 我が国の医療者のワークロードと教育 <p>この講義シリーズでは、医療者教育をマクロに捉え、医療者教育、さらには医療の枠を超え、社会において、医療とは何であるのか、医療者育成とはどういう位置づけで社会からは捉えられ、どのような意義があることなのか学習する。社会の要望・要請に呼応する医療者教育であるためのSocial accountability、人々の健康や病気には、医学的な要因のみならず社会的・液剂的・政治的環境の要因を受けていると捉える社会的決定要因、日本の保険医療制度にフィットする医療者教育の在り方を講義で学習する。そして社会に貢献できる教育の在り方を、医療のワークロードなどの現在の問題を加味しながら実現可能性を加味しつつ議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号②) 氏名 鈴木康之 /1回 [キャンパス演習x1] ・e演習名： 医療者教育のニーズの同定と対応 <p>教育は、様々な視点や領域から発生するニーズに呼応して形成されなければならない。現代や近未来の医療者教育にはどのようなニーズが見込まれるのかを探索し、同定し、それらにどのように呼応するのかをマクロの視点からアプローチを計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号③) 氏名 廣内大輔 /2回 [e-learning講義x1、e-learning演習x1] ・e講義名： 医療者教育の歴史と未来 ・e演習名： 医療者教育者の役割の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号④) 氏名 谷口泰弘 /3回 [e-learning講義x1、e-learning演習x2] ・e講義名： 医療者の需要と供給 ・e演習名： 日本の医療の方向性と育成する学生像 ・e演習名： 教育格差の社会学 <p>この講義と演習においては、医療者教育を経済学的視点から捉える。医療者や教育者のマンパワーとワークロードは、どのような医療者教育を展開するのかを考えるうえで欠かせない情報である。医療者の人材に関する需要と供給状況を学ぶ。そして日本の医療がどのような方向にすすみ、どのような学生が求められるのか経済学的視点から議論し、さらに教育格差に関しても社会学的に検討し、入学試験の適切なありかたを議論し改善計画を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号⑤) 氏名 西城卓也 /10回 [e-learning講義x4、キャンパス演習x3、e-learning演習x3] ・e講義名： 医療者教育学1: 教え方・学び方 ・e講義名： 医療者教育学2: 評価 ・e講義名： 医療者教育学3: プログラム開発と評価 ・e講義名： 医療者教育学4: 教員養成 ・e演習名： ケーススタディ: 医療者教育を形成するドライビングフォース ・e演習名： ケーススタディ: 課題同定 ・e演習名： ケーススタディ: マクロレベルでの理論的分析 ・e演習名： ケーススタディ: ミクロレベルでの理論的分析 ・e演習名： ケーススタディ: 改善策提示 ・e演習名： ケーススタディ: 改善策への意見交換 <p>これら一連の講義と演習では、社会における医療とその教育の関係性を踏まえつつ、教育のアプローチにはどのような原則が存在するのかを俯瞰的に学習する。講義においては、教え方・評価法・カリキュラム開発とプログラム評価・教員養成を総論的に学び、同時にこの修士課程における学習内容を概観する。そしてこれらの学びと、他の講義の社会的影響・ニーズを加味しながら、医療者教育を形成するドライビングフォースについて、ケーススタディを通じて検討する。学生は、ケースの中から課題を同定し、大局的、焦点的に課題を分析し、多面的に改善策をデザインする。そして学生同士で意見交換し、最終課題レポートを提出し評価を受ける。</p> <p>キーワード： 医療教育のニーズ、医療者教育者の専門性</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習20H</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>必 修 科 目</p>	<p>教育理論と効果的な教育方法</p> <p>概要： 人間が学習をどのようにとらえ、どんなプロセスを経てその学びを得るのかというメカニズムは、医療者教育学における教授法、評価法、カリキュラム開発の3大基本領域において根源をなすものである。学習者心理を理解することは、教育的影響を加味した評価のデザイン、効果的な学びを調整するカリキュラムのデザインに必要不可欠である。学習者が、自己の認知プロセスや学習行動を調整するアプローチ、および感情や文脈といったそれに影響する要因を理解するために必要な、認知心理学と学習理論を学習する。また医療者教育に欠かせないテクニカルスキルの学習方法も学ぶ。またより学習者の多様なニーズに合わせた効果的教育や学習者支援をできるようにするため、基本的教育方法のみならず、支援のアプローチを学習する。</p> <p>目標： 1) 認知心理学の根拠に基づき教育の在り方や、学習者の特性を論じることができる。 2) 医療者教育において頻用される講義法、グループ学習、一対一教育の基本的な原則を理解し説明できる。 3) 教育実践の改善のための策を事例に基づき理論的かつ建設的に議論できる。 4) 様々な学習場面での学習者とのコミュニケーション・支援を効果的に行える。 5) シミュレーションなど最近の教育アプローチについて自由な討議ができる柔軟な姿勢を示すことができる。</p> <p>授業の内容・講師：(オムニバス方式/講義、演習、実習で全21コマ(講義10回・演習9回・実習2回))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号⑥) 氏名 西城卓也 /5回 [e-learning講義x4、キャンパス演習x1] ・e講義名： メタ認知 ・e講義名： 情報処理と記憶 ・e演習名： 問題解決 ・e講義名： 感情と学習行動 ・e講義名： 文脈と学習 <p>教育に関連する心理学の中でも、特に医療者教育に应用されることが多い認知心理学の内容について、扱う。考え方を考えられるメタ認知、新しい学習内容をどのように処理・記憶をどのように理解する情報処理、学習者がいかに問題を解き解決するのか、そのスキルをどのように成長させるのかを理解する問題解決、学習中の感情がどのように学習行動に影響するのかを学ぶ感情と学習行動、学ぶ場面や環境、文脈性の学習と記憶への影響を理解する文脈と学習を履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(調書番号⑦) 氏名 藤崎和彦 /2回 [e-learning講義x2] ・e講義名： 学びとは【導入授業】 ・e講義名： 学習者：概論 <p>学習とは、そもそもどのようなものであるのかといった学習観・教育パラダイムは、指導者の教育や指導方法に大きく影響するものであり、現代の教育パラダイムを学習する。そして学習者とはどのような多面性がありどのような特徴を持つ存在であると考えられるのか、教育理論の流れを踏まえ学習する。</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習18H 実習4H</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉔ 氏名 藤江里衣子 /3回 [キャンパス講義 x2、演習 x1]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e講義名: 教授・学習心理学 ・ e講義名: 臨床心理学 ・ e演習名: 教育認知心理学 ・ (調書番号㉕ 氏名 清水郁夫 /2回 [キャンパス講義 x1、キャンパス臨地実習 x2]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e講義名: 現代の医療者教育における様々な教育方略 ・ e臨地実習名: 技能の効果的なインストラクション ・ e臨地実習名: チーム教育現場で活躍するシミュレーション教育 ・ (調書番号㉖ 氏名 早川佳徳 /1回 [キャンパス演習x1]) ・ (調書番号㉗ 氏名 高杉信寛 /1回 [キャンパス演習x1]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e演習名: シミュレーション教育における指導 <p>シミュレーション教育は、技能スキルの獲得をするための学習段階を考えると、知識と実践をつなぐ架け橋である。実際にシミュレーション室においてシミュレーション教育をデザインする際のエッセンスを学び演習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉘ 氏名 今福輪太郎 /7回 [キャンパス講義x1、キャンパス演習x1、e-learning演習x5]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e講義名: 正統的周辺参加から実践共同体まで ・ e演習名: ケーススタディ1: 学習者の様々な文脈での学び ・ e演習名: ケーススタディ2: 課題同定 ・ e演習名: ケーススタディ3: 課題分析 ・ e演習名: ケーススタディ4: 理論的分析 ・ e演習名: ケーススタディ5: 課題考察と教育 ・ e演習名: ケーススタディ6: 総合討議 <p>学習は、その場その場の学習が継続的につながり、最終的には、能力を熟達化させ、プロフェッショナルに成長していく。この講義と演習シリーズにおいて、講義では、JレイプとEウェンガーが提唱した正統的周辺参加論における実践共同体への周縁的参加を学習する。そして演習では、医療者がどのように中心的役割を果たすようになるのかを示すシナリオを提示する。そして正統的周辺参加論で、そのシナリオの継続的学習を考えると、実際の医療者教育においてどのような課題があるか、その理由と原因を理論的に分析し、課題に対する考察と教育のアプローチを提案し、総合討議する科目である。</p> <p>キーワード: 学習方法・方略の基本的構造、自己主導型学習、成人学習理論、正統的周辺参加論と実践共同体、熟達化理論、省察的実践家、協働学習と協調学習、社会的学習理論、動機付け理論、Ausubelの有意味受容学習、Bloomの完全修得学習、経験学習サイクル、ダブルループ学習、記憶の構造、文脈学習、フィードバック</p>	
<p>学習評価の原理と評価方法</p>	<p>概要: 医療系の人材の能力を判定する評価方法の理解は、カリキュラムや授業の中での学びの進捗の確認や、国家試験・資格試験といった判定試験を公正公平に行うにあたり欠かせない。医療者教育における評価について、妥当性・信頼性などの基本的原則や、理解しておくべき評価のパラダイムと様々な評価ツールを理解する。そして授業・科目・入学/卒業試験・資格試験など各段階における評価において、公平な試験・判定がデザインできるだけの基本的能力を身につけることを目指す。</p> <p>目標: 1) 妥当で効果的な学習者評価を開発・運用・分析・評価するために必要な、教育測定学の基本を説明できる。 2) 評価方法を、妥当性・信頼性・受容性・教育への影響・コストパフォーマンスの観点から総合的に吟味できる。 3) 集計された評価結果を、必要に応じて統計学的あるいは質的に集計・評価できる。 4) 目的に応じて実現可能な学習者の評価方法とその活用を設計、計画できる。</p> <p>授業の内容・講師: (オムニバス方式/講義と演習で全20コマ (講義10回・演習10回))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉙ 氏名 西城卓也 /6回 [キャンパス講義 x1、e-learning演習x5]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e講義名: 医療者教育における様々な評価 【導入授業】 ・ e演習1: ケーススタディ: 評価とその活用の事例 ・ e演習2: ケーススタディ: 課題の同定 ・ e演習3: ケーススタディ: 課題の分析 ・ e演習4: ケーススタディ: 課題の改善策 ・ e演習5: ケーススタディ: 改善策の議論 <p>医療者教育で活用されている様々な評価 (入学試験、科目試験、実習評価、卒業試験、卒後の資格試験) を題材にしたシナリオに基づき演習する。どのような課題や問題があり、論理的な分析を行い、改善策を提案し、そして各自の改善策に対して意見交換をし、総合的に評価の在り方を議論する。学生は、課題レポートを最後に提出し評価を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉚ 氏名 清水郁夫 /3回 [e-learning講義 x1、キャンパス演習 x1、e-learning演習 x1]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e講義: 評価の原理 ・ e演習: ケーススタディ: 様々な評価の妥当性の検証 ・ e演習: 技能の評価 ・ (調書番号㉛ 氏名 大江直行 /1回 [キャンパス演習x1]) <ul style="list-style-type: none"> ・ e演習名: シミュレーション教育における評価 <p>科目「教育倫理と効果的な教育方法」で取り上げたシミュレーション教育のデザインとタイアップして履修する。シミュレーション教育においては、どのような評価方法が期待されるのか、またどのような課題がありどう克服するのかを実際のシミュレーション室で演習する。</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習20H</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉔ 氏名 松山泰 /1回 [e-learning講義 x 1]) ・ c講義名: 認知に応じた試験方法 ・ (調書番号㉓ 氏名 恒川幸司 /5回 [キャンパス演習x1, キャンパス講義 x 1, e-learning講義 x 3]) ・ c演習名: 総括評価の判定と活用 ・ c講義名: 評価の作成・実施・採点 ・ e講義名: 入学試験・卒業試験・アウトカム評価 ・ e講義名: 試験方法と学習者の行動 ・ e講義名: 項目評価と概略評価 <p>総括評価は、学習者の進級や資格の判定に大きく影響するものであり、統計学的な解析に基づく判断と、適切な運用が必要不可欠であり、その背景と原理を学ぶ。試験問題の原理と作成、実施の注意点や、採点の原理、入学試験や卒業試験における評価の方法、試験が与える学習者への影響と教育的効果を学習する。そしてしばしば活用される項目評価と概略評価の補完的活用方法を演習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉒ 氏名 川上ちひろ /3回 [キャンパス演習 x 1, e-learning講義 x 2]) ・ e講義名: 困難な状況の学習者の評価 ・ e講義名: 落伍者判定と学習支援: 達成度の振り返りと計画 ・ c演習名: 落伍者とのコミュニケーション <p>評価が適切に行われた場合、落伍者が発生することがあるので、その学習者に対する補習や学習支援が必要になることがある。学習が困難な状況にある学習者は、どこに、誰に問題があるのかを多角的に分析し、その分析に沿って適切な学習支援をおこない、どのようなコミュニケーションをとってゆくの望ましいか、その方略を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉑ 氏名 Linda Snell /1回 [e-learning講義 x 1]) ・ e講義名: 診療現場での評価 <p>キーワード: 評価のパラダイム、Programmatic Assessment、評価の原則、妥当性、評価ツールと活用、量的・質的評価の集計、判定、ミラーのピラミッド、プログレステスト</p>	
カリキュラムの開発と評価	<p>概要: カリキュラム/プログラムとは、すなわち学びの総体である。教育の総体には、明確な長期中期目標、学習理論に基づく教育方略とその配置、熟達化を継続的に評価できる評価システムの設計、効果的な運用ができる人材とその養成、カリキュラム運用、関わる人すべてにとって相応しい学習環境の整備、のように教育のすべての要素が総体としてまとまっている。効率よく効果的に教育が行われるカリキュラム/プログラムをデザインするために必要な、カリキュラムデザインの原則を理解することを旨とする。またプログラム評価のモデルを理解し、プログラム評価の分析と改善計画を立案できるエッセンスを学習する。</p> <p>目標: 1) カリキュラム/プログラムの構成要素を説明できる。 2) 科目群の整合性や、順次性、学びの進捗と統合という観点からカリキュラムを論じることができる。 3) 学びと評価の連続性を理解し、教育パラダイムというレンズを通じて、カリキュラムの長所と短所を議論できる。 4) 実現可能なプログラム計画を設計・運用できるようになる。</p> <p>授業の内容・講師 (オムニバス方式/講義、演習、実習で全21コマ (講義10回・演習9回・実習2回))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉘ 氏名 松山泰 /8回 [キャンパス講義 x 2, キャンパス演習 x 1, e-learning演習x5]) ・ c講義名: 自己調整学習を涵養するカリキュラム ・ c講義名: プログラム化された評価 ・ c演習名: プログラム化された評価を組み込む ・ e演習名: ケーススタディ: 学びの総体の解剖学 ・ e演習名: ケーススタディ: 目標と学習領域、設定されたコース・学習内容 ・ e演習名: ケーススタディ: シラバス・資料・方略と経験 ・ e演習名: ケーススタディ: 学習者評価 ・ e演習名: ケーススタディ: プログラム評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉙ 氏名 森田浩之 /2回 [e-learning講義 x 2]) ・ e講義名: 卒後の研修プログラムのデザイン ・ c講義名: 研修プログラムにおける修了判定 <p>卒後の新人教育プログラム、研修プログラムは、卒業後に学習者が実際の実践社会に学びの場を移行し実践力を高める機会を提供するものであり、その構築のエッセンスを学習する。またともすると卒後研修は非構造化されがちであるが、研修を終えるという判定方法は構造化され、プログラムの中で学びや経験が総合的に評価されるべきであり、その体系的評価方法について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉚ 氏名 鈴木康之 /4回 [e-learning講義 x 3, キャンパス講義 x 1]) ・ e講義名: カリキュラムを構成する要素 【導入授業】 ・ e講義名: アウトカム基盤型教育の構築 ・ e講義名: アウトカム基盤型教育における評価 ・ c講義名: 様々な職種の新卒後カリキュラム <p>カリキュラムとは、学びの総体であると定義づけられる。カリキュラムを構成する要素として、シラバスやスケジュールといった基本的なものを越えて必須の構成要素を学習する。そしてカリキュラムの在り方は様々であるが、現代の医療者教育で一番普及しているアウトカム基盤型教育における学習と評価、そしてその限界について実践的に学習する。また職種により様々な卒前卒後のカリキュラムが存在しそれらを把握することで、各職種の強みと課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉛ 氏名 恒川幸司 /3回 [キャンパス講義 x 1, キャンパス演習 x 1, e-learning講義x1]) ・ e講義名: プログラム評価のアプローチ ・ c演習名: カリキュラム/プログラムの分析と改善 ・ c講義名: Institutional Research総論 <p>カリキュラムやプログラムを評価することは、個人や各カリキュラムの運用や効果・効率を確かめ改善するために欠かせないものであり、そのアプローチを学習する。またどのような評価データを用いて、どのように分析するのが望ましいのかその普遍的モデルの構築を演習する。またその教育を担う組織の教育の運営や成果を大局的に把握・分析・改善するために必要なInstitutional Researchの総論を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉜ 氏名 西城卓也 /4回 [e-learning演習x2, キャンパス臨床実習x2]) ・ e演習名: ケーススタディ: 各自のカリキュラム・プログラムの診断 ・ e演習名: ケーススタディ: カリキュラム・プログラムの治療計画 ・ c臨床実習名: プログラムと評価 ・ c臨床実習名: 評価のプログラムへの影響 <p>履修したカリキュラムの開発・分析方法を応用し、各自のモデルでどのようにそのエッセンスを応用できているか、いないのかを自己点検する演習をする。そしてどのようにカリキュラム評価を改善するのかを評価し、計画を提示する。課題レポートとして提出する。この課題は科目「教育実践報告と改善のための批判的吟味」にも関連する重要な課題である。また実際の岐阜大学での、医療面接実習の指導の臨床実習を通じ、実際のプログラムの中の小さな評価がどのようにプログラムに影響し、つながるのか、その連続性を議論する。</p> <p>キーワード: ガニエの9教授事象、ADDIEモデル、Posnerカリキュラム論、学習環境、教育理論とカリキュラム、プログラム評価理論、大学認証、Institutional Research、Kirkpatrick Model</p>	オムニバス方式 講義20H 演習18H 実習 4H

<p>医療者教育におけるグローバル化と日本での展開</p>	<p>概要： グローバル化の時代に求められる、国際標準を満たす医療者教育とはどのようなものであるか、日本の強みと弱点を含め、多角的に議論する。一方、教育とは国や組織の文化の影響をうけていることも事実であり、本科目では国や組織における文化を理解するフレームワークを学習する。そしてその視点から、国や組織の文化が日本の教育の在り方の形成にどのように影響しているのかを学習する。そして医療者教育が、グローバルスタンダードとローカルルールの狭間で、どのように我が国の教育を形成しているのかMicro, Meso, Macroの各レベルの視点から分析する。</p> <p>目標： 1) 世界的に提示されている医療者教育のグローバルスタンダードを理解し説明できる。 2) 国際標準・基準に照らし合わせて日本の医療機関の強みと弱みを同定し、その改善を提示することができる。 3) 国の文化、組織の文化を理解する理論的枠組みを理解し、医療や教育への影響を議論できる。 4) 教育の違いを文化的にとらえる視座を獲得し、それを教育実践にどの様に組み込めるのか洞察できる。</p> <p>授業の内容・講師：（オムニバス方式／講義と演習で全20コマ（講義10回・演習10回） ・（調書番号② 氏名 鈴木康之 /6回 [キャンパス講義 x 2、キャンパス演習 x 3、e-learning演習 x 1]） ・ c講義名： グローバルスタンダードの背景と現状 【導入授業】 ・ c講義名： 卒前教育の外部評価 ・ c演習名： 卒後教育の外部評価 ・ c演習名： 外部の基準から見た医療機関の問題 ・ c演習名： 問題の批判的吟味 ・ c演習名： 問題への改善策の効果的提示 様々な国で他国の教員や学生が教えるようになったグローバル化の時代において、国際標準を満たす医療機関であると評価を受けることは重要な外部評価であり、その背景・現状をまず学習する。また世界医学教育連盟などによる卒前・卒後の外部評価基準とはどのようなものであるのかを理解する。またそのような基準から見て我が国の医療系大学・医療機関の弱点と強みは何かを把握し、それをどのように改善すべきで、どのように外部評価に対して提示するのかを演習する。課題へのレポートは評価を受ける。 ・（調書番号⑩ 氏名 山本眞由美 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ c講義名： グローバライゼーションと日本の医療 グローバル化は様々な局面に影響しているが、医療者教育へのニーズを知る観点からも、まず医療制度やサービスに対してどのような影響があるのかを講義にて理解する。そして患者のメディカルツーリズムや医療者ツーリズムの時代における医療者の社会的責務とは何かを議論する。 ・（調書番号⑪ 氏名 今福輪太郎 /4回 [e-learning講義 x 2、e-learning演習 x 2]） ・ c講義名： アジア・日本の教育と儒教 ・ c講義名： 西洋と東洋の文化的相違点と類似点 ・ c演習名： 比較文化論の特徴・目的・実際の方法 ・ c演習名： 文化を比べる意義と問題点 グローバル化の時代においてこそ、むしろ自国の特徴を理解し、その良き特徴を生かす方略を考案することが求められる。日本（人）の文化的特徴とは何かをまず基本を理解する。またアジア・日本における儒教の教えの特徴の基本と、教育への影響を学習する。また西洋と東洋のように単純な比較ではなく、日本と各国においてどのような点で類似点・相違点が存在するのかを理解し議論できることを目指す。また医療者教育のデザインや研究において国の文化的な影響の考察は必要不可欠であり、その比較方法や事例、さらにはその問題点と意義・展望を学ぶ。 ・（調書番号⑧ 氏名 西城卓也 /4回 [e-learning演習 x 4]） ・ c演習名： 文化の影響：マイクロレベル ・ c演習名： 文化の影響：メソレベル ・ c演習名： 文化の影響：マクロレベル ・ c演習名： 文化的視点からの教育の比較 学生が各自の教育実践で携わる事例を参考にして、国や組織の文化の特徴がどのように影響しているのかを、制度などのマクロな視点、プログラム・方略などのメソのレベル、学習者心理などのマイクロレベルで検証する。そしてそれぞれの実践の相違と共通点を学生間で共通し比較し類似点・相違点を議論する。 ・（調書番号⑨ 氏名 小野香織 /2回 [キャンパス講義 x 2]） ・ c講義名： 国の文化 ・ c講義名： 組織の文化 ・（調書番号④ 氏名 小西由樹子 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ c講義名： グローバルマインドセットの育成 ・（調書番号⑥ 氏名 Joyce Pickering /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ c講義名： 西洋と東洋：カナダと日本を例に ・（調書番号⑦ 氏名 Daisy Rotzoll /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ c講義名： 西洋と東洋②ドイツと日本を例に</p> <p>キーワード： 国際分野別認証、国文化、Hofstedeの文化論、組織の文化と診断</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習20H</p>
-------------------------------	---	--

<p>医療系教育者の教育能力開発</p>	<p>概要： 医療者教育の運用や改革を、病院や学部のリーダーとともにけん引する教育の専門家として、現代の複雑化・高度化した教育に対応できるような教育スキルや資質を有する教育者の育成ストラテジーを学ぶ。特に教員/スタッフの教育力養成のためのプログラム・セッション・ワークショップの具体的構築方法を演習する。そして医療者も教育者も生涯にわたり、立場に応じた教育能力を開発・維持するためにどのような継続的で効果的な学びが求められるのかを議論する。</p> <p>目標： 1) 教育能力の開発と役割による段階的な発達に在り方を議論できる。 2) 教員・スタッフといった指導者養成について理論的方法論とその評価方法を提示できる。 3) 指導者育成のためのワークショップや各種教員養成を効果的に実施しつつ、内省し改善計画を立てられる。</p> <p>授業内容・講師：（オムニバス方式/講義、演習、実習で全21コマ（講義10回・演習9回・実習2回））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（調書番号① 氏名 藤崎和彦 /1回 [e-learning演習x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e演習名： KJ法による創造性開発・ワークショップの魅力 ・ワークショップが広く活用されているその歴史的背景やこの方法の概説を学習する。また文化人類学者の川喜田二郎氏が開発したKJ法も、ワークショップにおいて頻用される手法であり、その方法とグループメンバーから創造的な発想を生み出すコツを学習する。 ・（調書番号② 氏名 早川佳徳 /1回 [e-learning講義x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e演習名： 模擬患者の育成 講義では、現代の医療者教育に欠かせない実習向けの模擬患者や、評価に活用される標準化患者の養成についてその背景・アプローチ・実践のコツを学習する。 ・（調書番号③ 氏名 西城卓也 /9回 [e-learning講義x1、キャンパス講義x3、e-learning演習x4、キャンパス演習x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・c講義名： 教員養成と組織改革【導入授業】 ・c講義名： 教員養成の概念と原理 ・c演習名： 教員養成の様々な領域と事例 ・e講義名： 教員養成のアプローチ ・c講義名： 教員養成における海外との連携 ・e演習名： ケーススタディ：魅力あるワークショップの準備 ・e演習名： ケーススタディ：魅力あるワークショップの構造 ・e演習名： ケーススタディ：魅力あるワークショップのファシリテーション ・e演習名： ケーススタディ：求められるワークショップの評価 <p>教員養成における概念と原理を学習する。スタッフや幅広い意味での教員・職員養成にけるその領域・方略やアプローチ・養成に必要な個人の資質とスキル・国際化に相応しい教員を養成する方略を概観するとともに、教員養成がどのように組織の改革につながるのかそのアプローチを学習する。またケーススタディによる演習を通じて、各教育機関・組織で行われるワークショップについて、どのような準備が望ましいか・どのような構造・スケジュールが適切か・その時のファシリテーション・成果の評価はどのように提示するのか等を、事例を題材にデザインし改善案を議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（調書番号④ 氏名 今福輪太郎 /5回 [e-learning講義x1、e-learning演習x2、キャンパス臨地実習x2]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名： 教育者としての自己概念の形成と発達 ・e演習名： 教育に対する観念に影響する因子 ・e演習名： 組織心理学：教育的役割に関する意志の決定 ・c臨地実習名： 質問紙による指導者の評価と啓発 ・c臨地実習名： 多職種連携教育の指導者としての成長 <p>医療者は、もともとは医療に従事することを目的として成長するが、指導に従事する者として成長しようとは必ずしも考えないし、全医療者に必要不可欠な資質・役割であるとは認識されていない。教育スキルの獲得も重要であるが、その根底にある教育観・教育者としての自己概念を学習し、どのように教育マインドセットを涵養させるのかその心理学的メカニズムを学習する。また組織における教育的役割の意思決定と行動変容も学ぶ。さらにファシリテーションなど教育的役割の啓発に有効な質問紙による自己評価の活用について、岐阜大学と県内の他の大学との合同多職種連携教育に参画しながら実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（調書番号⑤ 氏名 齊藤裕之 /3回 [e-learning講義x1、キャンパス講義x1、キャンパス演習x1]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名： “Change Agent（変革者）” ・c講義名： 病院における人材育成 ・c演習名： 変革を仕掛ける ・（調書番号⑥ 氏名 Yvonne Steinert /2回 [e-learning講義x2]） <ul style="list-style-type: none"> ・e講義名： 教員としての成長：終着駅のない旅 ・c講義名： 教員養成のエビデンスと展望 <p>キーワード： 教員養成方法論、行動変容、プレゼンテーションスキル、ワークショップ、生涯教育と継続的専門能力開発（CPD）、Managerial、Executiveコーチング</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習18H 実習 4H</p>
<p>医療者教育の改革におけるリーダーシップとマネジメント</p>	<p>概要： 医療機関の基盤をなす人材・業務・環境を、効果的にマネジメントし、ニーズに応じた組織改革をするため、組織の力学と変化を起こすためのエッセンスを学習する。そして医療機関における教育の改革・推進を実現させるためのリーダーシップ論と組織の変革を支える人材のフォローアップに関する理論を学習する。</p> <p>目標： 1) 学習する教育機関について、概説できる。 2) 組織を形成・変容させるリーダーシップ・フォローアップ・方略・計画を理論的に論じることができる。 3) 教職員の協働と育成について方略を計画できる。</p> <p>授業内容・講師：（オムニバス方式/講義と演習で全20コマ（講義10回・演習10回））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（調書番号⑦ 氏名 鈴木康之 /7回 [キャンパス講義x1、キャンパス演習x1、e-learning演習x5]） <ul style="list-style-type: none"> ・c演習名： 事例検討：大学病院での教育改革の事例検討 ・c講義名： 事例検討：大学の改革の事例検討 ・e演習名： 事例検討：カリキュラムの改革の事例検討 ・e演習名： 事例検討：新しい評価アプローチの導入の事例検討 ・e演習名： 事例検討：地域における継続的プログラム導入の事例検討 ・e演習名： 組織教育の問題同定 ・e演習名： 組織改革の戦略的計画の立案 <p>組織の変革やそのためのリーダーシップの発揮に様々な理論やモデルが存在するが、実際の組織変革においては、必ずしもすべてのエッセンスが凝縮されるわけではない。ここでは病院改革・学部改革・カリキュラム改革・といった組織の変革の様々なモデルの事例検討を行い、実際の現場でどのようなエッセンスが活用され、理論的にどのような問題があるのかを議論する。そして自施設の組織教育の問題を医療者教育の視点から同定し戦略的計画を立案するワークを行う。</p>	<p>オムニバス方式 講義20H 演習20H</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉔ 氏名 山本真由美 /3回 [キャンパス講義 x 1、e-learning講義 x 1、e-learning演習 x 1]) ・ c講義名: マネジャーの役割とスキル ・ e講義名: フォロワーの役割とスキル ・ e演習名: チームワーク ・ (調書番号㉕ 氏名 小西由樹子 /5回 [キャンパス講義 x 2、e-learning講義 x 2、キャンパス演習 x 1]) ・ c講義名: 組織の構造 ・ e講義名: 組織の質管理 ・ c講義名: リーダーシップと組織変革の8段階 ・ e講義名: 合意形成・コンフリクトマネジメント ・ c演習名: 組織文化の改革と危険性 ・ (調書番号㉖ 氏名 西城卓也 /5回 [キャンパス講義 x 1、e-learning講義 x 2、e-learning演習 x 2]) ・ c講義名: 変容学習と組織 【導入授業】 ・ e講義名: 組織の促進・阻害因子 ・ c講義名: 組織のパラダイムシフト ・ e演習名: 組織変革につながる教員養成 ・ e演習名: 組織変革の計画 <p>国際化から求められるニーズや、多職種連携を必要とする状況、新たな教育カリキュラムや制度を取り入れる際には、組織がそれらのニーズに応じて学習し変容する必要がある。組織がどのように変容するのかについて、Mezirowの変容学習理論を学習し、さらに組織改革やパラダイムシフトの促進・阻害因子を理解する。改革をどのように協働的に推し進めるのか、その時に必要な教員養成とはどのようなものかを演習する。</p> <p>キーワード: 組織行動論、常識化理論 (Normalization Process Theory)、Kotterのマネジメント理論、リーダーシップ、フォロワーシップ、チームワーク、戦略計画、ミンツバーグの「組織の5つのコンフィグレーション」、Total Quality Management (TQM)</p>	
<p>教育実践報告と改善のための批判的吟味</p>	<p>概要: いつの時代でも教育理論は変革し、完璧で唯一無二の教育というもの無く、一長一短であることを自覚しつつ、より最善の医療者教育とはどのようなものかを利用可能な根拠に基づき批判的に吟味し、模索する必要がある。明日からの実践している教育を、昨日のそれよりは望ましい最善のあり方に改善計画ができることを目指す。これまでの科目での基本的理論とモデルの学びを、各自の実践に当てはめ応用し、根拠のある理論的な改善計画を構築する。</p> <p>目標: 1) 根拠に基づく最善の医療者教育について議論できる。 2) 自らが日常的に実践している教育実践を要約しつつ、その問題点を教育方法・評価・カリキュラム・指導者養成・組織改革の視点から多角的に同定し、根拠に基づく改善計画を立てることができる。</p> <p>授業内容・講師: (オムニバス方式/講義と演習で全30コマ(講義3回・演習27回相当))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㉗ 氏名 西本 裕 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉘ 氏名 丹羽雅之 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉙ 氏名 早川佳徳 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉚ 氏名 寺町ひとみ / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉛ 氏名 阿部恵子 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉜ 氏名 田口則宏 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉝ 氏名 田島嘉人 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉞ 氏名 布原佳奈 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㉟ 氏名 半谷真七子 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㊱ 氏名 鈴木一吉 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㊲ 氏名 土屋静馬 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㊳ 氏名 尾原晴雄 / [キャンパス演習 x 1相当]) ・ (調書番号㊴ 氏名 吉村 博 / [キャンパス演習 x 1相当]) <p>・ e演習名: 教育実践の課題を同定/分析する: 他職種の視点から (キャンパス演習 x 4相当)</p> <p>この科目では、自らの教育機関・部門における教育実践を題材に、これまでの課題で学んだ内容に応用しながら、現状の記述・課題の同定・分析・批判的吟味・改善計画を構築してゆく。この科目では、まず教育実践の課題を同定し、他職種連携という観点から課題を同定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㊵ 氏名 操 奈美 / [e-learning演習 x 1相当]) ・ (調書番号㊶ 氏名 白木育美 / [e-learning演習 x 1相当]) <p>・ e演習名: 教育実践の課題を同定/分析する: 実践者の視点から (e-learning演習 x 1相当)</p> <p>教育実践においては実践者が直面する現実の問題を、教育をマネジメントする立場の者が直視し、ブラクティカルなレベルで理解することが重要であり、この演習では、実践者の視点から教育実践の問題を抽出する。具体的には、学生各自が各自の実際に行った教育場面を録画し供覧する。そして相互にその分析と改善を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㊷ 氏名 藤崎和彦 / [e-learning演習 x 1相当]) <p>・ e演習名: 教育実践の課題を同定/分析する: カリキュラムの視点からすべての教育実践は、何らかのカリキュラムや文脈、もしくは現場の作業や労働の中に組み込まれているものであり、この演習ではよりマクロで、全体的な学びの総体的視点から問題がないか同定を試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号㊸ 氏名 池田貴英 / [キャンパス演習 x 2相当]) ・ (調書番号㊹ 氏名 田口皓一郎 / [キャンパス演習 x 2相当]) <p>・ e演習名: 教育実践の課題を同定/分析する: 現場の視点から (キャンパス演習 x 2相当)</p> <p>教育の現場、特に病院など医療の現場においては、教育の実践はその現場の状況に強く影響され、制約を受けたり、学習効果を受けたりしている。現場という場の視点から課題を同定することを試みる。</p>	<p>オムニバス方式 講義 6H 演習54H</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号②) 氏名 鈴木康之 / [e-learning演習 x 4回相当] ・ e演習名: 教育実践の課題を批判的に文献考察する: 国際標準の視点から各自の施設での教育が、国際標準を満たすことや国際水準を意識した内容・アプローチ・評価・カリキュラムであるのかを批判的に吟味し今後の展望を考察する。 ・ (調書番号⑩) 氏名 今福輪太郎 / [e-learning演習 x 4回相当] ・ e演習名: 教育実践の課題を批判的に文献考察する: 日本の文化的視点から教育の様々な考え方や手法が欧米など外部から取り入れられることが多い我が国の医療者教育において、日本ではこれは適応できるのか、日本であればどうすればもっと効率よくできるのかを文化的に考察する必要があり、自らの実践でその検証を行う。 ・ (調書番号⑧) 氏名 西城卓也 / [キャンパス講義 x 2、e-learning講義 x 1、e-learning演習 x 3回相当] ・ c講義名: 教育の学術的活動【導入授業】 ・ c講義名: 教育学的な考察 ・ e演習名: 医療者教育学と医療者教育 ・ e演習名: 教育実践の課題の改善案を提言する: 理論的視点から講義においては、教育実践を学識あるものにするために必要なエッセンスやプロセス、そして実践から研究までの学術的スペクトラムを理解する。そして学識ある考察の方法を学習する。また演習においては、各自の教育実践を多角的かつ理論的にその妥当性や適切さを検証・考察する。 ・ (調書番号⑬) 氏名 恒川幸司 / [e-learning演習 x 3回相当] ・ e演習名: 教育実践の課題の改善案を提言する <p>ここまで演習で記述し、問題を同定し、分析し、批判的吟味を行った各自の教育実践を、考察とともにまとめ提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号⑭) 氏名 川上ちひろ / [e-learning演習 x 5回相当] ・ e演習名: 相互評価: 教育実践の改善案の比較 <p>お互いの教育実践の改善レポートを共同的に比較学習し、相互フィードバックをし、レポートをブラッシュアップしたのちに最終提出する。</p> <p>キーワード: 理論・モデル・根拠に基づく最善の医療者教育、PDCAサイクル、KAIZENメソッド</p>	
<p>選択必修科目</p>	<p>臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル</p> <p>概要: どの様な場面であれ、医療者教育者には効果的な教育的コミュニケーションスキルが求められる。なかでもメンタリング/コーチング、グループ学習のファシリテーションやフィードバックは、特に学習者へのインパクトも大きく、学習を促すうえでも欠かせない教育スキルである。それらの教育的コミュニケーションスキルの学習を行う。科目「e-learningにおける学習支援」、「教育実践の視点と外部評価」を履修する学生はこの科目を履修する。</p> <p>目標: 1) 教育的コミュニケーションとして、メンタリング、フィードバック、ファシリテーションスキルの理論と知見を理解し、その活用を議論できる。 2) 教育的なコミュニケーションの原則について議論ができ、フィードバックやファシリテーションスキルの実践的コツを説明できる。</p> <p>授業内容・講師: (オムニバス方式/講義と演習で全9コマ(講義6回・演習3回))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号③) 氏名 西城卓也 / 4回 [e-learning講義 x 4] ・ e講義名: メンタリングとコーチング ・ e講義名: ファシリテーション ・ e講義名: フィードバックの機能 ・ e講義名: 記述フィードバック <p>メンタリングや特にコーチングで用いられるスキルの原則を学習する。またファシリテーションを理解するため、グループ学習の形態や特徴を把握し、目標・役割・ルールの設定など学習を促進するファシリテーションの原則を学習する。そしてフィードバックは古典的ではしきり最も日常的に多用される教育スキルである。フィードバックの理論とフィードバックの実践的コツについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号⑪) 氏名 今福輪太郎 / 5回 [e-learning講義 x 2、e-learning演習 x 3回相当] ・ e講義名: 応用言語学から見た医療者教育におけるコミュニケーション【導入授業】 ・ e講義名: 談話のメカニズムと分析 ・ e演習名: メンタリング・フィードバック・ファシリテーションの実践事例の振り返りと改善 <p>効果的なコミュニケーションを考えるうえで、言語的な原則を理解することは、適切な言葉を選択し文脈に合わせることを可能にするので、そのエッセンスを学習する。また各自が取ってきたコミュニケーションを振り返り、批判的に吟味し長所と改善点を議論しレポートを作成する。</p> <p>キーワード: メンタリング、コーチング、ファシリテーション、フィードバック</p>	<p>オムニバス方式 講義12H 演習 6H</p>
	<p>e-learningにおける学習支援</p> <p>概要: 医療者教育を担う人材の育成は、医療者教育者に求められる重要なミッションのひとつである。各組織における効果的なワークショップを開催することはもちろん、e-learningなどを通じて、スタッフ養成を企画・運営し、ファシリテーションする能力が求められる。ここでは科目「臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル」で学習したファシリテーションやフィードバックの理論とコツを、実際にチューターとして参加しながら、演習する。また、e-learningによる学習を行った後に、履修生が実際に直接ワークショップに参加し効果的に学ぶためにはe-learningのないワークショップとは異なるコツを要するので、実習することは非常に意義深い。そのようなオンライン学習への参加経験を通じて、e-learningによるスタッフ養成のための企画の効果的・効率的なマネジメントを学習する。この履修には「臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル」の事前の履修が必要である。</p> <p>目標: 1) 教育能力の開発で重要なオンライン学習においてフィードバックやファシリテーションスキルを体得する。 2) 教員・スタッフといった指導者養成について俯瞰的に企画・運営・評価のありかたを議論できる。 3) 指導者育成のためのワークショップや教員養成を内省しつつ、改善計画を立てられる。</p> <p>授業内容・講師: (オムニバス方式/講義2回・演習10回・実習4回相当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号⑧) 氏名 西城卓也 / 2回 [e-learning講義 x 2] ・ e講義名: オンラインでの教員養成【導入授業】 ・ e講義名: オンライン学習における知識の構築 <p>医療職は勤務時間が長く、また不規則でありがちなので、定期的な教員養成プログラムには参加しにくい職業である。医療者教育者に、今後ますます求められる、オンライン学習による教員養成のノウハウを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (調書番号⑫) 氏名 川上ちひろ / [e-learning演習] ・ (調書番号⑪) 氏名 今福輪太郎 / [e-learning演習・臨地実習] ・ (調書番号⑬) 氏名 恒川幸司 / [e-learning演習] <p>医療者教育フェロシップコースのオンライン学習にアシスタントとして参加し、議論のファシリテーションやフィードバックをOn The Job Training としてe-learning演習・臨地実習(14回相当)する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モジュールでの支援: 議論のファシリテーション(演習 x 2相当) ・ レポートへのフィードバック(演習 x 2相当) ・ モジュールでの支援: 提出されたレポートや議論に対する評価(演習 x 2相当) ・ オンライン学習をまとめるワークショップでの指導に臨地で参加(実習 x 4相当) ・ チューターとしての経験と振り返り(演習 x 1相当) ・ オンラインによる教員養成に関する考察(演習 x 1相当) ・ レポート提出(演習 x 2相当) <p>キーワード: オンライン学習、グループファシリテーション、記述フィードバック</p>	<p>オムニバス方式 講義 4H 演習20H 実習 8H</p>

<p>医療者教育研究のプロトコール立案</p>	<p>概要： 世界の英文誌を通じて研究論文を発信するためには、用意周到な先行研究調査のほか、世界の教育者が必要とみなす、より重要なリサーチクエストを立て、先を見越した分析方法を設定する必要がある。研究プロトコールを書く一連の流れを実践的に学習する。</p> <p>目標： 1) 研究プロトコールに必要な項目を列挙しつつ、概説・議論できる。 2) 自分自身の医療者教育研究プロトコールを作成・提示できる。</p> <p>授業内容・講師：（オムニバス方式／講義と演習で全28コマ（講義5回・演習23回） ・（調書番号⑥ 氏名 塚田敬義 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ e講義名： 国際誌掲載を目指す研究のプロトコールと倫理的配慮 【導入授業】 国際誌を通じた知見の発信を目指すにあたり求められる、研究計画書の構造や、注意すべき点、さらには倫理的配慮について学習する。 ・（調書番号⑧ 氏名 西城卓也 /2回 [キャンパス講義x1、e-learning講義 x 1]） ・ c講義名： 世界の様々なジャーナル ・ e講義名： 研究論文のカテゴリ 国際誌にも様々な特徴とカテゴリが存在するので、より適切なカテゴリで、発信力があり、より多くの狙いとする読者のいるジャーナルに投稿するために、まず雑誌とカテゴリを理解する。 ・（調書番号⑩ 氏名 今福輪太郎 /5回 [キャンパス講義 x 2、キャンパス演習 x 3]） ・ c講義名： 良い論文の書き方；筆者の視点から ・ e講義名： 国際誌における論文の査読ポイント：査読者の視点から ・ e演習名： 世界の教育者の視点からみる論文 まずどのような条件が国際誌でのアクセプトに求められるのか基準を筆者の視点から学習する。また国際誌における投稿論文の査読プロセスや査読のポイントについて、実際の国際誌での査読の現状などを踏まえて学習し、自分の論文がどのような視点から批判的に査読されているのかを理解する。 ・（調書番号⑪ 氏名 清水郁夫 /10回 [e-learning演習 x 10相当]） ・ e演習名： 論文の背景のための先行研究調査・リサーチクエストの設定 ・（調書番号⑫ 氏名 松山泰 /10回 [e-learning演習 x 10相当]） ・ e演習名： 研究方法のデザインとプロトコール作成</p>	<p>オムニバス方式 講義10H 演習46H</p>
<p>e-learning・シミュレーション教育の開発</p>	<p>概要： 根拠に基づく新しい教育実践をデザインし、チャレンジできることは、教育のエキスパートに求められる能力である。まずデザインに必要なガニエの9教授事象を中心にシミュレーション教育やe-learningなどの領域におけるイノベーションに必要な教授法に関する原理を深く学習する。また近年の新たな教育ツールや新しい教育アプローチを駆使して、これまで実践したことがない未来型の教育を設計しつつ、次世代の医療者教育の姿を議論する。すべてe-learningで履修する。</p> <p>目標： 1) 現代の教育の問題点とそれを解決する新しい教育方略について情報収集し、議論できる。 2) シミュレーション教育・e-learning等のテクノロジーを活用した教育を計画し、論理的に省察できる。 3) 21世紀の新たな医療者教育について議論できる</p> <p>授業内容・講師：（オムニバス方式／講義と演習で全27コマ（講義3回・演習24回） ・（調書番号⑬ 氏名 丹羽雅之 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ e講義名： 21世紀に求められる医療者教育 新しいテクノロジーとツールを適切に活用し、これまで学んだことがないことを後進に指導する必要がある21世紀の医療者教育の現状と医療者教育者が直面する課題を概説する。 ・（調書番号⑭ 氏名 淺田義和 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ e講義名： インストラクショナルデザイン（ID理論）とe-learning 【導入授業】 ・（調書番号⑮ 氏名 八木街子 /1回 [e-learning講義 x 1]） ・ e講義名： 医療者教育におけるシミュレーション教育 （指導教官と演習 / e-learning演習 x 24相当） ・ 課題選択（シミュレーション教育、e-learningを使った教育、その他Technology Enhanced学習） ・ 現在の教育の課題同定・分析（演習 x 3相当） ・ 新たな教育のデザイン（演習 x 13相当） ・ 理論的説明と批判的吟味（演習 x 6相当） ・ レポート作成・呈示（演習 x 2相当）</p> <p>キーワード： シミュレーション教育、e-learning、インストラクショナルデザイン、AI</p>	<p>オムニバス方式 講義 6H 演習48H</p>
<p>教育実践の視察と外部評価</p>	<p>概要： 卒前・卒後の教育実践を実際に観察し考察することは、自身の学びにつながるのみならず、外部評価者としての客観的視点を養うことにも通じる。自らが希望する同僚（ピア）の見学先に赴き、教育を観察し意見交換することで他者の教育を題材に互恵的に学ぶことが可能になる。この科目では、実地での観察を通じて、視察先のピアと意義ある議論をし、第三者に的確に報告する方法と意義を実践的に学ぶ。この履修には「教育的コミュニケーションスキル」の自洗の履修が必要。</p> <p>目標： 1) 視察の意義や方法論について議論できる。 2) 視察した教育について記録し、相手にフィードバックできる。 3) 第三者に視察報告をするシミュレーションを通じ、効果的報告ができる。</p> <p>授業内容・講師：（オムニバス方式／演習と実習で全18コマ）（実地視察を含む演習） ・（調書番号⑯ 氏名 鈴木康之 /演習 x 8） ・（調書番号⑰ 氏名 西城卓也 /演習 x 4、実習 x 6） 実地実習を通じて、他者の教育実践を通じて相互学習する機会とする。現地での教育実践や学習環境等を包括的に参与観察的に視察する。可能であれば学習者の反応や声を聴き、視察後は意見交換を行い、その学びをレポートに仕上げる。 ・ オリエンテーション・視察の準備；【導入授業】（演習 x 1相当） ・ 視察の背景・内容に関する文献検索・調査目的に関する事前準備（演習 x 6相当） ・ 現地での視察・見学（実習 x 6相当） ・ 視察後の振り返りと意見交換（演習 x 1相当） ・ 視察・見学のレポート（演習 x 4相当）</p> <p>キーワード： 観察学習、PAL(Peer assisted learning)、視察</p>	<p>オムニバス方式 演習24H 実習12H</p>

<p>北米における医療者教育</p>	<p>概要： 世界で行われているコースに参加したり、海外で教員養成やワークショップに携わる経験は、世界の潮流の把握、比較を通じた日本の理解、グローバルマインドセット涵養などにおいて重要な体験である。そのような経験を通じて、国際的医療者教育を考える視座を得る。事前学習を履修したのち、提携大学のマギル大学で開催される1週間の教員養成に関するセミナーに参加し、帰国後報告・議論する。</p> <p>目標： 1) 海外で医療者教育を学ぶ意義を説明し論じることができる。 2) カナダの医療者教育の概略を理解し、日本と比較検討し建設的議論ができる。 3) カナダの医療者教育に関する活動に参加し、最新の教員養成学を理解する。</p> <p>授業内容・講師：(オムニバス方式/講義と演習で全26コマ(講義4回・演習22回相当)) ・(調書番号⑧) 氏名 西城卓也 /1回 [e-learning講義 x 1] ・e講義名：カナダの医学教育：概略【導入授業】</p> <p>カナダはコンピテンシー基盤型教育を積極的に取り入れ、次々と革新的なアイデアや評価を生み出し、世界の医学教育をリードしており、その現状と概略を学習する。 ・(調書番号④) 氏名 Linda Snell / [e-learning講義 x 1] ・e講義名：Competency based Medical Education at McGill ・(調書番号45) 氏名 Farhan Bhanji /1回 [e-learning講義 x 1] ・e講義名：ComMEDC Framework and assessment system ・(調書番号④) 氏名 Joyce Pickering /1回 [e-learning講義 x 1] ・e講義名：マギル大学医学部のカリキュラム ・(調書番号⑪) 氏名 今福輪太郎 /1回 [e-learning演習 x 1] ・e演習名：海外研修の学びと意義： カナダの医学教育からの学び、海外研修での学びと振り返り、この経験の将来への発展についてレポート報告する。 ・(調書番号④) 氏名 Linda Snell、調書番号④) 氏名 Yvonne Steinert / [e-learning講義 x 1、キャンパス演習 x 21相当 (実質4日間)]</p> <p>・演習 (@マギル大学)： マギル大学医学教育センター主催の医療者教育学に関する1週間短期コースに参加する。 ・教員養成の役割・守備範囲・提供される内容 (演習 x 3相当) ・ワークショップから実践共同体へ (演習 x 3相当) ・教員養成プログラムをデザインする (演習 x 3相当) ・教育文化の変容 (演習 x 3相当) ・教員養成に関する知見 (演習 x 3相当) ・教員養成のプログラム評価 (演習 x 3相当) ・教員養成の研究アプローチ (演習 x 3相当)</p> <p>キーワード： 国際活動、グローカライゼーション、国際貢献</p>	<p>オムニバス方式 講義10H 演習44H</p>
<p>欧州における医療者教育</p>	<p>概要： 国の文化や制度はその国の医療者教育のあり方に影響することは、自国に在るのみでは体感できないこともある。欧州における医療者教育のなかでも、基本的臨床技能の学習という切り口から、オランダのCO-OPアプローチ (COGNITIVE ORIENTATION to daily OCCUPATIONAL PERFORMANCE) と呼ばれる人間の技能学習の方略、ドイツのライプツィヒ大学医学部シミュレーションセンターにおけるPeer Assisted Learningを例に、スキル獲得プロセスのモデル事例を学習する。特にシミュレーション教育に参与観察し、学習者を教育に参画させる実例を学ぶ。またそのような海外での体験学習を通じて、海外と日本の医療者教育を比較的にとらえる視座を得る。</p> <p>目標： 1) 海外での活動を行う意義を説明し論じることができる。 2) ドイツの医学部における医療者教育に関する活動に参加し、学習成果と振り返りを報告できる。</p> <p>授業内容・講師：(オムニバス方式/講義と演習で全24コマ(講義6回・演習18回相当)) ・(調書番号⑧) 氏名 西城卓也 /1回 [e-learning講義 x 1] ・e講義名：欧州の高等教育：ボローニャ宣言と課題【導入授業】</p> <p>1999年の大学改革とヨーロッパにおける高等教育の統一を目指したボローニャ宣言に関する背景と標準化の功罪、各国への影響を概説する。 ・(調書番号47) 氏名 Jolien van den Houten /2回 [e-learning講義 x 2] ・e講義名：CO-OPアプローチ (COGNITIVE ORIENTATION to daily OCCUPATIONAL PERFORMANCE) ・e講義名：協調学習と技能獲得学習 ・(調書番号⑪) 氏名 今福輪太郎 /1回 [e-learning講義 x 1] ・e講義名：学生同士の学び、指導者としての学生・研修生 学習者同士で学びあうことによる様々な効果と、まだ学習者でもあり指導的立場にも移行してゆく研修生・新人が指導に携わることの教育的効果を学習する。 ・(調書番号④) 氏名 Daisy Rotzol /20回 [e-learning講義 x 2、キャンパス演習 x 18相当 (実質4日間)] ・e講義名：ライプツィヒ大学医学部の基本的臨床技能教育 ・e講義名：Peer Assisted Learning</p> <p>・演習 (ライプツィヒ大学)： ・ライプツィヒ大学医学部の教育 (演習 x 2相当) ・学び方：臨床技能を例に (演習 x 2相当) ・評価：OSCEを例に (演習 x 2相当) ・学習環境：シミュレーション教育の環境と活用 (演習 x 2相当) ・ドイツと日本医療者教育 (演習 x 5相当) ・報告レポート作成 (演習 x 5相当)</p> <p>キーワード： 国際活動、グローカライゼーション、国際貢献</p>	<p>オムニバス方式 講義12H 演習36H</p>

<p>特別 研究 科目</p>	<p>医療者教育研究技法の 基本</p>	<p>概要： 教育の実践と研究のスペクトラムにおいては、自己の信条に基づく教育実践と世界に発信できる教育研究の実践が両極にある。それらの段階を学び、学識を伴う教育実践や様々なレベルでの研究発信の方法を理解する。また教育研究に必要な文献検索・基本的研究デザイン・リサーチクエスションの設定・量/質的分析技法を体得する。また研究における倫理的原則を学び、研究上の倫理的課題を議論し、倫理的に相応しい教育研究を模索できる。</p> <p>目標： 1) 医療者教育における学術的活動の重要性について説明できる。 2) 社会医学として位置づけられる医療者教育学で活用できる研究方法について用途に応じて概説できる。 3) 教育研究における研究テーマ/リサーチクエスション設定、先行研究検索、データ収集/解析法を説明できる。 4) 教育上の研究倫理について原則を説明し課題を議論できる。</p> <p>授業内容・講師：(オムニバス方式/講義と演習で全22コマ(講義8回・演習14回)) ・(調書番号⑥) 氏名 塚田敬義 /1回 [キャンパス講義 x 1]) ・ c 講義名： 研究倫理 修士論文含めた教育研究を実践する場合には必要な、学習者への倫理的配慮や適切な同意の取得など、理解すべき研究倫理観と手続きを同時に学習する。 ・(調書番号⑧) 氏名 西城卓也 /7回 [キャンパス講義 x 2、キャンパス演習 x 2、e-learning演習 x 3相当]) ・ c 講義名： 教育研究と修士論文のイントロダクション【導入講義】 ・ c 講義名： 文献検索の方法 ・ c 演習名： リサーチクエスションの設定 (演習 x 2回相当) ・ e演習名： 自らの実践からのテーマ同定とその文献検索 (演習 x 3回相当) 教育研究の様々なタイプと発信の在り方を、雑誌を含めて学びつつ、本修士課程で求められる修士論文の内容や構造を概説し、充実した修士論文を作成できるよう議論する。また各種文献検索サイトや探したかについて学習し修士論文に必要な論文を見つけられるようにする。そして教育実践の中に盛り込むミニプロジェクトとしての研究に関するリサーチクエスションを設定する。そしてその領域における先行文献を調査し報告する。 ・(調書番号⑩) 氏名 今福輪太郎 /3回 [キャンパス講義 x 1、e-learning講義 x 1、キャンパス演習 x 1]) ・ c 講義名： 質的研究法 ・ e講義名： 混合研究法 ・ c 演習名： 実際の質的分析 社会医学のひとつである医療者教育では、質的なアプローチが研究でしばしば有効であり、代表的な研究手法である主題分析法を学び、また量的研究と合わせた混合研究法を学ぶ。</p> <p>・(調書番号⑩) 氏名 谷口泰弘 /1回 [e-learning演習 x 1] ・ e演習名： 研究による参加者への配慮 修士論文の課題が内定し、データ収集方法を模索しつつ、データ収集方法や介入方法が、研究参加者に対して倫理的に適切であるかどうか吟味する。 ・(調書番号⑬) 氏名 恒川幸司 /2回 [キャンパス講義 x 2]) ・ c 講義名： 量的研究の原則；比較 ・ c 講義名： 量的研究の原則；相関 教育研究におけるアンケートの集計や評価スコアの分析などで活用される量的な基本的統計手法として、群間の比較と複数のパラメータの相関を検定する方法などを実践的に学習する。 ・(調書番号⑲) 氏名 合掌頭 /1回 [キャンパス講義 x 1]) ・ c 講義名： 心理統計学 ・(調書番号①) 氏名 藤崎和彦 /2回 [キャンパス演習 x 2相当]) ・ e演習名： 同一テーマにおける質的・量的アプローチを通じた検証 (6時間以上) 研究方法は、研究テーマとクエスションがあってこそ選択できるものである。設定しようとするクエスションに対して量的に、そして質的にはどのような方法で研究できるか、比較検討する。 ・(調書番号⑳) 氏名 川上ちひろ /2回 [e-learning演習 x 2相当]) ・ e演習名： 研究テーマの同定 修士論文にて取り扱う教育機関や実践、およびその修士論文の中のミニプロジェクトで研究しようとする研究テーマを設定する演習を行う。 ・(調書番号㉑) 氏名 鈴木康之 /3回 [キャンパス演習 x 3相当]) ・ e演習名： 現場におけるデータ収集と分析の想定 多くの教育研究においては、現場におけるデータを収集し分析する必要がある。実際の収集・分析時にどの様な困難があるのか、そしてそのトラブルシューティングはどのようなものかを議論しつつ研究計画書を完成させる。</p> <p>キーワード： 学術的活動、教育研究手法、研究倫理</p>	<p>オムニバス方式 講義16H 演習28H</p>
-------------------------	--------------------------	---	------------------------------------

医療者教育実践の調査と研究	<p>概要： 修士論文の作成を通じて、医療者教育研究と教育実践の報告とは異なることを理解し、理論的で優れた学識を伴う報告について学習する。修士論文においては、学生の教育テーマに関する先行研究や問題点、今後の展望を含めた先行文献調査を行い背景としてまとめる。そして自己の教育実践が、これまでの科目で学習した教授法、評価、カリキュラム、教員養成、組織改革などの視点からどのような構造をなし何が課題であるのかを批判的に吟味し執筆する。そして期限内に得た研究データを駆使して、その成果と実践の改善への応用を議論する。</p> <p>目標： 1) 各自の持つ教育活動に関する現状報告や国内の現状を報告・議論できる。 2) 教育実践の構造について、問題点、目標、教育方法、カリキュラム、評価、必要な教員養成と組織へのインパクトなどを理論的に説明考察しつつ、近年の研究とすり合わせて体系的に俯瞰し、かつ批判的吟味ができる。 3) ミニサーチプロジェクトに関する背景、クエスチョンに対する調査方法と結果、及び学術的考察と実践への応用を論述できる。</p> <p>授業内容・講師：（2つの導入講義と修士論文に関する演習で全94コマ（講義2回・演習92回） ・（調書番号① 氏名 藤崎和彦 /1回 [e-learning講義x1] ・e講義名：教育実践の学識ある発信【導入授業】 修士論文において、学識ある発信のため盛り込むべき内容と構成としての、背景・文献レビュー・教育の実践と実際・問題点・批判的吟味・ミニプロジェクト・考察・結語という構造を俯瞰し、論文の準備をすすめる。</p> <p>・（調書番号⑧ 氏名 西城卓也 /1回 [キャンパス講義 x 1] ・c講義名：医療者教育の実践・プログラム評価・研究 教育の知見を発信するにあたり、プログラム評価とオリジナルリサーチの意義と方法の違いと類似性を理解する。そしてオリジナルリサーチと今回の修士論文の区別を理解し、修士論文を通じた効果的な情報発信をする方策を共有する。 ・（主・副指導教員 /92回 [キャンパス演習 x 24、e-learning演習x68相当] ・演習名：各自の教育実践の学識ある批判的吟味・改善計画・研究成果の呈示 ＊この演習では270時間（6単位相当）の学修を通じ修士論文を書き上げる。科目前半・中間・後半の3回にわたりキャンパス演習を行う。また適宜Web対面授業システムを使って、指導教員とミーティングの時間を確保する。学生は、専任教員2名、非常勤講師1名から、多角的な助言を受けながら演習することができる。</p> <p>・自らの教育実践のマクロ・メソ・ミクロレベルでの記述 (キャンパス演習 x 5、e-learning演習x5相当) ・実践の国内外の動向・背景・実践の裏付けとなる知見の系統的文献検索と考察 (キャンパス演習 x 5、e-learning演習x19相当) ・実践に関連するプロジェクト（調査・研究） (キャンパス演習 x 5、e-learning演習x19相当) ・修士論文の執筆（キャンパス演習 x 5、e-learning演習x22相当) ・効果的なプレゼンテーション（キャンパス演習 x 4、e-learning演習x3相当)</p> <p>(調書番号① 藤崎 和彦) 卒前の医療者能力開発に関する問題や課題を解決する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号② 鈴木 康之) 医療者教育の指導やプログラム開発・改善に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(調書番号③ 西本 裕) 看護教育の指導法・カリキュラム・評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号④ 村上 啓雄) 医師や地域医療学全般の課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑤ 森田 浩之) 総合診療や医師の総合力の教育、研修プログラムにおける課題の研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑥ 塚田 敬義) 倫理的視点から医療者教育やその研究を分析し改善するための研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑧ 西城 卓也) 医療者の評価や学習方略・カリキュラム開発における課題の指導を行う。</p> <p>(調書番号⑨ 大江 直行) 研修医・専攻医等の育成・臨床指導に関する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑩ 谷口 泰弘) 社会学・倫理的視点から医療者教育を分析し研究するための指導を行う。</p> <p>(調書番号⑪ 今福 輪太郎) 医療者教育の課題について質的研究手法を用いて研究する指導を行う。</p> <p>(調書番号⑫ 川上 ちひろ) 看護学や多職種連携の領域における課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑬ 恒川 幸司) 医療者教育の課題について統計的手法を用いて研究する指導を行う。</p> <p>(調書番号⑭ 高杉 信寛) 医師の育成・臨床指導に関する研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑮ 操 奈美) 医師らの地域における臨床教育の課題の研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑯ 白木 育美) 医師らの地域医療の教育・プログラム開発に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑰ 池田 貴英) 総合診療や基本的臨床技能・総合力の教育における課題の研究指導を行う。</p> <p>(調書番号⑱ 田口 皓一郎) 総合診療や基本的臨床技能とその評価における課題の研究指導を行う。</p>	講義 4H 演習 184H
---------------	--	------------------

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。